

産地戦略

実施期間 令和4～6年度

実施主体	滋賀県
都道府県	滋賀県
対象地域	県域（全19市町）
対象品目	水稲、ブロッコリー



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	● 温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

滋賀県では、田畑輪換や地球温暖化の影響により、水田の地力が低下傾向にあり、水田作物（水稻、麦および大豆、野菜）の収量および品質が不安定となっている。また、肥料価格の高騰に伴い、化学肥料に依存しない施肥体系への転換が求められている。牛ふん堆肥は、地力向上や土壌への炭素貯留によるCO2排出削減が期待されるものの、専用散布機械の導入や流通体制の整備、堆肥の品質、散布時の臭気・粉じん等の対策が課題となっている。

そこで、肥料と同じ散布機で散布でき、臭気・粉じんが軽減されるペレット牛ふん堆肥を用いた栽培実証を通して、減化学肥料栽培や土壌炭素貯留量の増加によるCO2排出削減したグリーン栽培体系への転換を進める。

現在の栽培体系（水稲）

[illegible]

グリーンな栽培体系（水稲）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名			○ ● 移植、基		◆ 追	■ 収	◆ ペレット牛ふん堆						○移植 ◆施肥 ■収穫
技術名			減化学肥肥料（基肥）				牛ふん堆肥施用						

現在の栽培体系（ブロッコリー）

[illegible]

グリーンな栽培体系（ブロッコリー）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名				◆ 基	○ 播	◆ 追肥	◆ 追	■ 収					○播種 ◆施肥 ■収穫
技術名				減化学肥肥料（基肥） 牛ふん堆肥施用									

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

水稲、ブロッコリー	現状R6	目標R11	備考
(参考) 対象品目の作付面積 (ha)	28390	▶ 28390	水稲、ブロッコリーを合わせた面積
グリーンな栽培体系の取組面積 (ha)	5.3	▶ 70	水稲、ブロッコリーを合わせた面積
環境にやさしい栽培技術の取組面積 (ha)	5.3	▶ 70	水稲、ブロッコリーを合わせた面積
省力化に資する技術の取組面積 (ha)	5.3	▶ 70	水稲、ブロッコリーを合わせた面積

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境省力	牛ふん堆肥の施用なし	▶ ペレット牛ふん堆肥の施用	化学肥料の使用量の削減 温室効果ガスの削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境省力	化学肥料の使用割合	100%	▶ 70%	
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

- ・事業成果を栽培指導指針等へ反映し、技術の普及を図る。
- ・ホームページで公表し、周知する。

関係者の役割

関係者名	近江米振興協会	湖北農業普及指導センター 湖東農業普及指導センター	生産者	
役割	・事業手続き ・事業のコーディネート ・事業計画、結果とりまとめ、事業進行への助言指導	・技術指導、調査 ・事業結果のとりまとめ	・実証ほの管理 ・技術の検証	

事業を活用して導入した農業機械等の活用面積の目標

農業機械名	作業内容	活用面積（R●）（ha）	備考

生産物の販売方法、消費者理解の醸成の取組等

--

その他